

道徳科学習指導案

令和5年10月27日（金） 第5校時 2年〇組教室

I 主題名

○主題名 こうへいなたいど（学指要領：公正、公平、社会正義）

○人権教育 重要課題（2）子どもたち

○資料名 ドッジボール

II 考察

1 価値観

本教材で扱う内容項目「公正、公平、社会正義」は、小学校学習指導要領第3章 特別な教科 道徳で次のように位置づけられている。

C 主として集団や社会との関わりに関すること [公正、公平、社会正義]
〔第1学年及び第2学年〕
自分の好き嫌いにとらわれなくて接すること。

低学年の発達段階では、仲良しの友達ができることで、活動範囲が家庭内から友達とのつながりへと少しずつ広がっていく。しかし、まだ自己中心的な考え方をしがちで、人も自分と同じ感じ方や考え方であると考え、異なる感じ方や考え方を否定する傾向がある。こうした自分の好みや利害によって友達を判断し、相手の気持ちを考えずに傷つけるような言葉を言ってしまうこともある。そのことが、仲間外れにつながるということをあまり意識していないという実態がある。

指導にあたっては、日常生活において、公正、公平な態度に根差した具体的な言動を取り上げて、そのよさを考えさせることが大切である。また、偏見や差別が背景にある言動については毅然として是正することが必要である。自分の好き嫌いによって言動が変わってしまうことについて、自分を振り返りながら深く考えさせるとともに、誰に対しても分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるように努めることで、みんなが気持ちよく過ごせることに気づくことができるようにする。これらの指導を通して、児童が誰に対しても同じように接していこうとする道徳的心情を育てることができるようにする。

2 児童の実態（削除）

3 教材観 教材名「ドッジボール」（出典：編集委員会）

主人公のゆかは、ボール運動が得意でないななみが同じチームになり、少し嫌な気持ちになる。ドッジボールが始まり、仲良しのあい子が当たったとき、ゆかは励ましの声をかける。次に、ななみがボールに当たるが、ゆかは、ななみには心無い言葉をかけてしまう。すると、相手チームのまおが、ななみに励ましの声をかけ、ゆかは自分のかけた言葉について思い返す、というあらすじである。

本教材は、ドッジボールの試合での出来事を扱った話である。はじめに、ななみが同じチームになったときのゆかの気持ちについて考えることで、友達の好き嫌いによる感情について考えさせたい。そして試合中、同じようにボールに当たった仲良しのあい子とななみへの声かけの違いについて話し合うことにより、好き嫌いや先入観によって言動が変わってしまうことについて、自分に照らして考えを深められるようにする。中心発問では、不公平な態度をとられたななみの気持ちに寄り添って考えることで、公平な態度で接することの大切さについて深く考えさせたい。さらに、相手チームのまおの声かけについて取り上げることにより、相手によって態度や言葉を変えることなく、誰に対しても公平に接することの利点について考えさせたい。

III 人権教育とのかかわり

いじめはどの学校でもどの児童にも起こり得る問題である。このことを十分認識し、早期発見、早期対応に努めるだけでなく、積極的に児童の人権や基本的な生活習慣、豊かな情操、他人に対する思いやり、善悪の判断、社会的マナー、自制心などに関する学習を様々な機会をとらえて設定していく必要がある。

そこで本教材では、登場人物の公平さに欠ける行動や、不公平な態度をとられた時の気持ちについて考えることを通して、誰に対しても分け隔てなく公平な態度で接することの大切さに気づくことができるようにする。その際、自分事として捉え、登場人物に対して共感的理解をすることで、自己中心的な考え方から相手の気持ちに寄り添った考え方をしていく必要があることに気づき、今後の自分の生き方で実現しようとする態度や意欲につながられるようにする。

【育てたい能力・態度】

- 感性：登場人物の公平さに欠ける行動について考えることを通して、誰に対しても公平な態度で接することの難しさに共感する。
- 知性：不公平な態度をとられた登場人物の気持ちについて考えることを通して、誰に対しても公平な態度で接することの大切さを理解する。

IV 本時の学習

- 1 ねらい ゆかの公平さに欠ける行動や、不公平な態度をとられたななみの気持ちについて考えることを通して、誰に対しても分け隔てなく公平な態度で接しようとする心情を育てる。
- 2 人権教育の視点
 - 感性：誰に対しても公平な態度で接することの難しさに共感する。
 - 知性：誰に対しても公平な態度で接することの大切さを理解する。
- 3 展開

【★ICT活用に関する事項】

主な学習活動 主な発問 (◎中心発問 ◇補助発問) 予想される児童の反応 [S]	○指導上の留意点
1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。(5分) S：けんかになったから、いっしょにあそべなくなった。 S：「あそびに入れて。」と言ったら、「だめだよ。」と言われて、かなしい気持ちになった。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <めあて> みんなとなかよくすることについて、考えよう。 </div>	○人は誰でも、自分の好き嫌いや利害によって偏った見方や考え方をしてしまうことがあることを自分の経験から認識できるように、相手に公平な接し方ができなかった経験を、アンケート結果を活用して問いかける。 【★提示】
2 教科書の教材文の範読を聞く。(5分) 3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。(20分) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◇ななみさんが同じチームになったことを知って、ゆかさんはどう思ったでしょう。 </div> S：まげちゃうから、いやだな。 S：同じチームじゃなければよかったのに。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◇同じようにボールに当たったのに、あい子さんとななみさんへのこえかけがちがったのは、どうしてでしょう。 </div> S：あい子さんはなかがいいから。 S：ななみさんはいつもドッジボールがとくいじゃないから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◎ゆかさんのことばを聞いて、下をむいたななみさんは、どんな気持ちになっていたと思いますか。 </div> S：とてもかなしい気持ち。	○話の内容を把握できるように、大型モニターに教材文を投影し、黒板に人物絵を提示する。 【★提示】 ○ゆかの言動の違いが明確になるように、二枚目と三枚目の挿絵を並べ、比較できるようにする。 ○人間は、親密さや先入観、場面によって態度が変わり、友達に公平に接することが難しくなることがあることに気づくことができるように、ゆかの行動の理由を問いかける。 ○友達が好き嫌いによって言動が変わってしまったり、ゲームに夢中になったりすることで、自分の知らないうちに傷ついてしまう友達がいることを自分事として深く理解できるように、教師がゆか

<p>S : ドッジボールに入らなければよかった。 S : 自分はドッジボールがへただからだめなんだ。 S : どうして自分だけそう言われるのかな。 S : ゆかさんはいじわるだからもうあそびたくない。</p>	<p>役、児童全員がななみ役になって役割演技を行う。不公平な態度をとられたななみさんの気持ちについて、様々な角度から考えさせる。 (ワークシート) ○当事者意識をもつことができるように、今までどんな場面でななみさんのような気持ちになったことがあるか、問いかける。 ○誰に対しても公平な態度をとることの大切さについて考えさせるために、「相手」(ななみ)だけでなく、「自分」「みんな」の気持ちについても考えるようにする。</p>
<p>評価項目【公平な態度で接することの大切さへの理解】 不公平な態度をとられたななみの気持ちについて考えることを通して、誰に対しても公平な態度で接することの大切さに気づくことができたか。(児童の発言・ワークシートの内容)</p>	
<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。(5分)</p> <p>◇ことばがかわると、気もちはどうかわりますか。</p> <p>S : みんながうれしい気もちになる。 S : みんなが楽しく気持ちよく生活できる。</p>	<p>○教材文の最後の場面を範読して、まおさんがどんな気持ちから励ましの言葉をかけたか、問いかける。 ○誰に対しても分け隔てなく公平な態度で接することが大切であることに気づくことができるように、公平さに欠ける行動がなくなると、どんなよさが生まれるか、「相手」「自分」「みんな」の三者の気持ちの変化を問いかける。 ○道徳的価値に迫るような考えを全体で共有する。</p>
<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。(10分)</p> <p>◇今までのことや、きょうの学しゅうをふりかえって、みんなとなかよくするために、これからどうすればよいでしょう。</p>	<p>○これから自分はどうしていきたいか考えを深められるように、ワークシートに書かせた後、全体で共有する。 (ワークシート)</p>
<p><振り返り> S : これからは、どの友だちにもやさしいことばで話そうと思った。 S : これからは、みんなの気もちを考えようと思った。</p>	
<p>◆評価の視点 発言、ワークシートの記述から、「不公平な態度をとられたななみの気持ちについて考えることを通して、誰に対しても公平な態度で接することの大切さについて多面的・多角的に考えている」姿を見取る。</p>	